

〔参考2〕 中山間地域ワークショップの開催

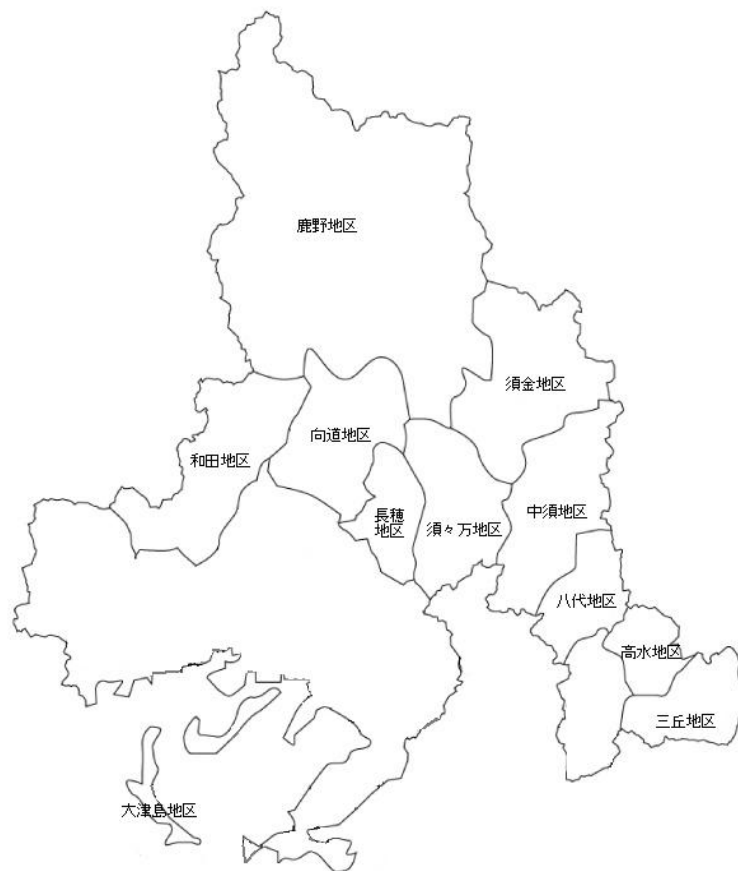
1. ワークショップの実施目的

後期基本計画における中山間地域の振興方策の検討にあたり、住民の皆さんの身近な暮らしの視点から地域の活性化に向けた方策を考えていただくために実施しました。

2. ワークショップの開催状況

まちづくりに関する連携協定を締結している徳山大学に委託し、中山間地域全11地区を対象として6箇所で開催しました。

日 時	地 区 名	参加人数	班 数
11月13日(水) 18時30分～20時30分	須金・中須・八代	32人	5班
11月18日(火) 15時～17時	和田	18人	3班
11月18日(火) 18時30分～20時30分	鹿野	15人	3班
11月19日(水) 18時30分～20時30分	須々万・向道・長穂	28人	6班
11月20日(木) 18時30分～20時30分	三丘・高水	30人	5班
11月22日(土) 13時～15時	大津島	15人	2班
合 計		138人	24班



《周南市の中山間地域》

3. ワークショップの進め方

(1) プログラム

全体の進行を徳山大学の和田先生が行うとともに、各班には進行役として徳山大学の学生が加わり参加者と交流しながら進めました。

趣旨説明 (5分)

まちづくり総合計画(後期基本計画)の策定経過、中山間地域を対象としたワークショップの位置付け

ミニ講義 (15分)

「アリとまちづくり - コミュニティの自律と自立 -」(徳山大学 和田先生)

～ 住民自治の重要性とまちづくりの展開方法 ～

ワークショップ (95分)

ア. 地域の強み、弱み (45分)

班ごとに各人が「強み」、「弱み」を出し合う。

イ. 「できること」と「したいこと」(45分)

各人が自分の楽しみ(生きがい)になり、地域の「強み」の活用になると考えられる「できること」「したいこと」を出し合う。

ウ. まとめ (5分)

班ごとの簡単な発表と全体意見の整理、意見の共有

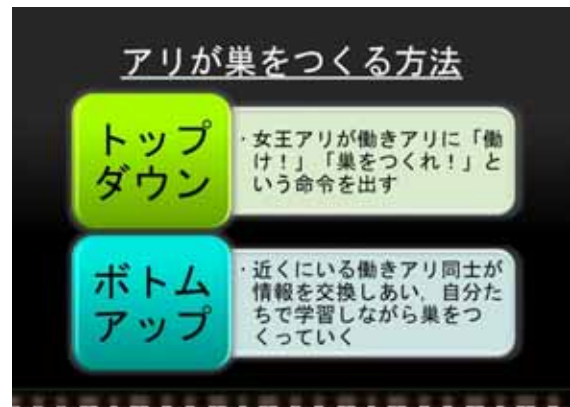
閉 会

(2) 「ミニ講義」配布資料から

No. 1



No. 2



No. 3



No. 4



No. 5

まちづくりのポイント(1)

- #「楽しいこと」「もうかること」
- #「何を」より「誰が」
- #「得意」を持ち寄る
- #着眼大局着手小局
- #つきぬけて変わらないもの

No. 6

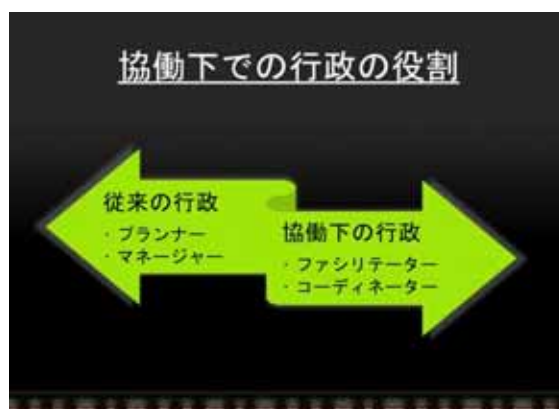
まちづくりのポイント(2)

- #「あれもこれも」→「これだけは」
- #「足を引っ張らずに手を引っ張る」
- #「強みを伸ばし、弱みを克服する」
- #「用意周到に攻め、臨機応変に守る」
- #「知恵」「汗」「金」

No. 7



No. 8



No. 9

周南市中山間地域づくり指針

<p>安心して快適に暮らせる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ組織の強化 ・生活環境の整備 ・交通の維持・確保 ・情報通信技術の活用 	<p>生き生きと活躍できる地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業の振興 ・交流活動の促進 ・定住の促進
--	---

4. ワークショップの実施結果

(1) 地区に共通する「地域資源（強み）」と「地域課題（弱み）」

地域資源（強み）

自然資源 ... 静けさ、清浄な空気や水、ホタル、桜・紅葉などの四季折々の景色など

社会資源 ... 人情の厚さ、子どもの素直さ、地域行事への参加・協力など

地域課題（弱み）

生活の課題 ... 医療、買い物、金融、教育等の生活サービスの縮小、それらを利用するための交通機能の充実など

産業の課題 ... 農林水産業の従事者の高齢化と後継者不足による農地等の荒廃と鳥獣被害の増加、農林水産業以外への就業機会の不足など

社会の課題 ... 人口の減少と少子化・高齢化に伴う地域リーダーの固定化や地域奉仕活動への負担増大など

そのほかの課題 ... 独居高齢者や高齢者単独世帯が増加しており、こうした世帯への支援が必要

(2) 地区別の強み、弱みの整理と解決のためのアイデア

須々万地区

〔地区の強み、弱み〕

地区の中心部に支所・公民館のほか、幼稚園・保育園から小学校、中学校、高等学校までの教育機関、病院、老人福祉施設などが立地している。

生活基盤施設の立地は地区の強みであり、地域外からの定住促進に向けたPR材料になる。市民運動会や防犯パトロール、親子あそびの広場などコミュニティ活動が活発である。道路工事の長期化による生活への影響、交通量の増加と無謀運転の発生、農道の生活道路化といった問題が発生している。

住宅団地の開発による人口の増加があるが、地域コミュニティの運営にあたっては、旧住民と新住民の両者の融合が課題となっている。

〔地区のいち押しアイデア〕

市北部の生活拠点として、生活サービス機能の維持・充実に努めるとともに、本地区と周辺地区を結ぶ生活交通サービスを確立する。

生活サービス機能の充実度をPRすること等により、定住人口の増加に努める。

新旧住民の融合・協働の仕組みづくりを通じて、地域コミュニティの充実・強化を図る。

向道地区

〔地区の強み、弱み〕

大高神山や金峰山、向道湖といった自然資源があり、大高神山を守る会のような住民主導の自然保護活動も展開されている。

ホタル鑑賞会や昼食会といった地域コミュニティ活動も行われ、住民同士の交流も図られている。

旧中学校を活用した芸術村がある。

地理的にも精神的にも地区の中心的存在であった中学校が廃校や高齢化の進展等により、住民の地域活動に対する意欲低下し、地域行事の担い手が不足している。

〔地区のいち押しアイデア〕

担い手の高齢化と不足から地域活動の維持が困難となっている実態を踏まえ、都市住民の協力を得た環境保全活動を推進する。

金峰山に遊歩道や登山道を整備すること等により、都市農村交流を推進する。

長穂地区

〔地区の強み、弱み〕

住倉山と黒木川（自然資源）、ゴルフ場と温泉（生活資源）、龍門寺（文化資源）などの地域資源がある。

長穂ほたる祭りや産業祭りが開催されるなど都市農村交流が展開されている。

地区の児童園には他地区からの利用者もある。

中学校の廃校、JA支所の廃止などにより生活サービス機能が低下しており、支所や公民館の新築、改築が求められている。

水はけが悪い水田が多く、ほ場整備が必要である。

針葉樹林が多く地区全体が暗い雰囲気である。

行事等への協力の負担が大きい。

〔地区のいち押しアイデア〕

長穂中学校跡地を地域コミュニティの拠点として有効に活用する。

関連グッズやキャラクターの開発などを通じて、「ほたるの里」としてPRを強化する
未活用の温泉資源を有効に活用することで、集客促進を図る。

中須地区

〔地区の強み、弱み〕

棚田が地区を象徴する景観となっている。

棚田で生産される米のほか、中須梨、手作り豆腐などの特産品がある。

久保神楽や枕踊りといった伝統芸能もあり、中学生がそれらを継承する活動もみられる。

地区内では食事会を通じて住民同士のコミュニケーションが図られている。

大田原自然の家を核に、ツリーの会の開催、棚田清流の会の活動を通じた自然環境の保護、自然体験を通じた都市農村交流が展開されている。

平地が少なく、ほ場整備も遅れていることから、効率的な農業生産は困難となっている。

集客力のある観光名所や特産品がなく、地区内のゴルフ場も近年利用客が減少傾向にある。

高齢化の急速な進行に伴い、老人クラブをはじめ地域コミュニティ機能が低下しつつある。

〔地区のいち押しアイデア〕

担い手の高齢化と不足から地域活動の維持が困難となっている実態を踏まえ、都市住民の協力を得た棚田等の環境保全活動を推進する。

大田原自然の家を拠点とした自然体験活動を展開する。

地元食材を使った農家レストランを開設・運営し、都市農村交流を推進する。

須金地区

〔地区の強み、弱み〕

梨やぶどうの栽培が盛んで、観光農園も多数立地し、梨ぶどう祭りも開催されている。地区のぶどうを原料とした「徳山巨峰ワイン」は周南市を代表する特産品となっている。和紙の産地でもあり、須金和紙センターでは紙すきを体験できる。北山集落や峰畑集落から眺める雲海は他地区では見ることのできない絶景である。中学校の休校、JA店舗の廃止、ガソリンスタンドの廃業によって、生活サービスの低下が著しく、住民の生活の質の確保が大きな課題となっている。

〔地区のいち押しアイデア〕

観光農園や須金和紙センターを活用した観光交流の取組み実績を踏まえ、雲海やホテル、竹資源など新たな地域資源の活用も見据えつつ、都市農村交流の一層の推進を図る。山村留学制度の導入を検討する。その際、受け入れる児童・生徒に対して、学力だけでなく、人間力の強化を目的とする教育が展開できるようにする。

大津島地区

〔地区の強み、弱み〕

大津島は瀬戸内海に浮かぶ離島であるが、四国や九州まで見渡せる景観・眺望や新鮮な海産物などが他地区にない強みである。回天記念館や回天関連施設、八十八か所、十人墓、石風呂、海水浴場、宿泊施設などの観光交流資源が多くあり、「観光の島」としての振興が期待される。市内の中山間地域の中でも高齢化率が特に高く、地域活動の担い手が不足している。医療と買い物については島内でのサービスが充分でなく、船の運賃値下げ等を通じて、市街地での医療・小売サービスを利用しやすい環境整備が必要である。台風による被害の最小化に向けた対応が強く要望されている。

〔地区のいち押しアイデア〕

高齢化が著しく進展し、生活サービス機能や地域活動の維持が困難となっている実態を踏まえ、特に医療と小売機能の確保に努めるとともに、公共施設管理等に関する行政と住民の役割分担と協働のあり方を再検討する。島全体を活かした「観光の島」づくりを継続・発展させる。海や山の恵み、高齢者の知恵などを活用することにより、高齢者でも取り組みやすいコミュニティビジネスの開発・展開を図る。

和田地区

〔地区の強み、弱み〕

市街地に車で約15分の距離にあり、都市的サービスを楽しむやすい。

高瀬峡や千石岳に代表される豊かな自然資源に恵まれている。

高瀬茶やみそ、こんにゃく、農産加工所でつくるケーキ、磨き丸太などの特産品がある。

国指定の重要無形民族文化財の三作神楽や故・津田恒美投手といった文化資源もあり、地区内にある有名なお菓子屋と食事処には近隣からの集客もみられる。

道路管理や通信基盤整備が充分でなく、開発された工業団地も進出企業が少ない。

医療や買い物等の生活サービス機能が充分でなく、高齢者等にとって、市街地等への交通アクセスの確保や充実させることが喫緊の課題となっている。

〔地区のいち押しアイデア〕

必要な生活サービス機能を楽しむために、特に高齢者を対象とした公共交通手段の維持・充実に努める。

多彩な自然・生産資源を活用した子どもの体験活動等を通じて、都市農村交流を推進する。地域魅力のPRや特産物販売の拠点やルートのあり方について検討する。

八代地区

〔地区の強み、弱み〕

本州で唯一のナベツルの越冬地が最大の特色である。

「鶴いこいの里」を核とした都市農村交流が行われているほか、様々な住民グループが主体的にナベツルの生育環境の保護活動を展開している。

ツルにやさしい環境づくりを背景に、低農薬野菜の栽培・販売にも取り組んでいる。

近年、ナベツルの飛来数が減少している。

生活サービス機能が縮小する中で、地区内での機能確保とともに、高水地区等の地区外拠点への道路網整備、公共交通の充実を望む声が強い。

交通安全確保のため、道路への信号増設が求められている。

〔地区のいち押しアイデア〕

生活サービス機能の確保・充実に努めるとともに、高水地区等の地区外への交通アクセスを充実させ、隣接地区の生活サービス機能を利用しやすくする。

既存の活動をさらに発展させる形で、ナベツルの生育環境の保護活動を住民と行政の協働により推進する。

「ツルの里」のPRや特産品販売の拠点、ルートのあり方について検討する。

三丘地区

〔地区の強み、弱み〕

熊毛ICをはじめ地区外への交通基盤が整っている。

三丘温泉と呼鶴温泉、周南カントリークラブ、東善寺やすらぎの里などの観光交流施設、徳修館や穴戸家、松原八幡宮、桜田神社、出雲大社三丘分社などの文化施設、島田川や黒岩峡などの自然資源がある。

地域資源は豊富であるが、集客促進に向けた取組みが十分でなく、特に温泉施設の活用・PRが課題となっている。

島田川は台風や豪雨によって増水し、沿川農地が冠水することもあり、これを防ぐための河川整備や自主防災組織の設立も課題となっている。

子どもの安全確保のため、通学路への歩道整備も強く要望されている。

〔地区のいち押しアイデア〕

安全・安心な地域づくりに向けて、島田川が増水等に対処するための自主防災体制を確立するとともに、児童・生徒の通学路への歩道整備を推進する。

多彩な観光交流資源が分布していることと熊毛ICの立地という強みを活かし、観光交流資源のPRを強化するとともに、地区内のポイントを周遊できる仕組みを構築する。

高水地区

〔地区の強み、弱み〕

国道2号やJR岩徳線高水駅があり、また熊毛ICにも近く、交通基盤が整っている。

烏帽子岳や夫婦岩などの自然資源、高水神社や安国寺、高水塾跡、正覚寺、旧山陽道などの文化資源が多数立地している。

防犯活動や青少年育成活動、シルバー人材センター、高齢者スポーツなどが活発である。交通基盤が整っている半面、新幹線や国道2号沿線での騒音、新幹線沿線の水源枯渇などが問題になっている。

JR高水駅の駅舎等の整備が不十分である。

地域社会の課題として、地区社協の活動や地域防災体制が充分でない。

高水地区または旧熊毛町での広域的な自治振興組織の設立が望まれている。

〔地区のいち押しアイデア〕

住民自治の確立に向け、自主防災組織を含めた自治組織の充実を図るとともに、高水地区または熊毛地区全体を対象とする連合自治会を設立する。

JR高水駅周辺の整備を進め、駅舎等を住民自治活動の拠点として活用する。

旧熊毛町内の各地区間の連携を一層強化し、「熊毛」としてのイメージアップと観光PRの強化を図る。

鹿野地区

〔地区の強み、弱み〕

中心部は鹿野ICを有し、国道や県道の整備が進み、広域的な交通利便性に優れている。長野山緑地公園、せせらぎ・豊鹿里パーク、石船温泉など都市農村交流に活用可能な資源が多数立地している。

名水百選に選ばれた清流通りや潮音洞、金峰山の桜、大泉の大池、あざみヶ岳、鹿野ふるさと祭りなど、都市農村交流に活用できる。

米やワサビ、山代和紙といった特産物がある。

渋川をよくする会や三虫クラブといった自然資源の保全や体験に関わるグループ、高齢者の見守り活動などがあり、住民主導の取組みも比較的活発である。

交通基盤や都市農村交流について優越性がみられる一方、地域生活や地域社会に関する課題が数多くある。

災害避難場所の確保、乗合タクシーの利便性の改善、合併に伴う行政サービス機能の縮小に関する不便が指摘されている。

〔地区のいち押しアイデア〕

地区中心部を生活拠点として、生活サービス機能の維持・充実に努めるとともに、生活交通サービスを継続・充実させる。

自然資源を中心に多彩な観光交流資源が立地していることと広域交通の利便性を活かし、自然資源の保全と再生（植栽・植樹）に努めるとともに、体験プログラムの開発・提供等による都市農村交流を積極的に展開する。

未活用の温泉資源を有効に活用することで、集客促進を図る。

(3) その他

- ・ワークショップの結果を今後の各地区のまちづくりの参考としてもらうため、他地区のアイデアを含めて参加者及び各地区内の全自治会に配布し、情報の共有を図りました。